

## 【資料4】

### 地方創生関係交付金事業実施計画 に掲げるKPIの達成状況等について

#### ■ 地方創生推進交付金

##### 【概要・目的】

平成28年度からの地方版総合戦略の本格的な推進に向け、地方創生の深化のために創設された交付金である。

##### 【対象事業】

地方版総合戦略に位置付けられた、自主的・主体的で先導的な事業

##### 【期待される効果】

先駆的な取組等を後押しすることにより、地方における安定した雇用創出、地方への新しいひとの流れ、まちの活性化など、地方創生の深化の実現に寄与する。

##### 【効果検証】

総合戦略同様、事業実施に伴う効果について重要業績評価指標(KPI)を設定しており、その検証と事業の見直し等について、令和3年度までは、角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会において行っていたが、令和4年度については、角田市長期総合計画等推進委員会において一体的に行うこととしている。

##### 【交付金上の事業名称・事業期間】

- ①『Challenge Million 2016 道の駅からはじまる角田(まち)づくり事業』  
(平成28年度～平成30年度)
- ②『ニューツーリズムを核とした地域活性化プロジェクト』  
(令和元年度～令和3年度)

##### 【②の事業費等】

令和元年度 4,711千円

(財源内訳 交付金:2,355千円、一般財源:2,356千円)

令和2年度 34,427千円

(財源内訳 交付金:17,213千円、

企業版ふるさと納税寄附金:14,000千円、一般財源:3,214千円)

令和3年度 15,196千円

(財源内訳 交付金:7,598千円、一般財源:7,598千円)

## 地方創生推進交付金事業（令和元年度～令和3年度）の概要

### 【事業の内容】

「道の駅かくだ」における賑わいを一時的かつ局所的なもので終わらせず、市内各所にその賑わいを循環させるため、次に掲げる「体験型かくだチャレンジ事業」及び「かくだ版スポーツツーリズム推進事業」に取り組む。

事業の実施にあたり、オープン後間もない道の駅の管理運営会社である『(株)まちづくり角田』が単独で新たな事業に着手することの難しさを考慮し、かつ、多角的な意見の集約を行った上で調査・研究を行い、より実効性のある事業を展開していくために、市民及び関係団体等で構成する『Challenge Million 市民会議』を創設し、体験型観光プログラム、かくだ版スポーツツーリズム等を構築するとともに、今後当該事業の実施主体となる『(株)まちづくり角田』に対し、事業の提案及びサポートを行う。

当該体験型観光プログラム等は、道の駅の賑わいの交流拠点としての機能を強化しつつ、かくだスポーツビレッジ（Kスポ）の利用者の増を図るだけでなく、市内に点在する観光地を結びつけ、地域経済の好循環を生み出すきっかけを創出するものであり、体験型観光プログラムの発着点を道の駅とすることで道の駅の利用者の増にも繋げていくものである。

### 1 体験型かくだチャレンジ推進事業

道の駅をプラットフォームとする地域資源をフル活用した体験型観光を推進するため、体験型観光に係る計画策定、体制整備、システム構築を行う。

- (1) マーケティング調査、計画策定等
- (2) 観光アドバイザー等の招聘
- (3) 体験メニュー掘起し開発
- (4) サイクルツーリズム用レンタサイクル導入
- (5) 体験型イベント運営、プロモーション
- (6) 観光周遊ルートの検討・策定
- (7) 観光周遊ツアー（モニターツアー）の実施

### 2 かくだ版スポーツツーリズム推進事業

Kスポと道の駅が、スポーツを通じて健康、子育て、まちづくり等をテーマに連携することで、交流人口の拡大及び地域経済の活性化を目指す「かくだ版スポーツツーリズム」を推進するにあたり、道の駅を拠点とした連携事業を展開するとともに、地域資源の一体的なPRを実施する。

- (1) 地域資源の一体的なPR（情報発信能力向上研修の実施、道の駅とスポーツ施設の地域資源コラボPRの実施）
- (2) 健康づくり・賑わいの拠点化（ウォーキング拠点化イベントの開催、大会等の誘致、人材育成の支援）
- (3) スポーツをテーマとした遊具を設置した幼児向けの遊び場の整備・道の駅と連携活用

## [令和元年度]

①「Challenge Million 市民会議」が市からの負担金(4,711 千円)を財源に次の事業を実施した。

1.「Challenge Million 市民会議」運営(21 千円)

2.体験型観光システム構築事業(2,345 千円)

今後、道の駅をプラットフォーム化して実施する体験型観光のシステムを構築するため、調査・研究を行い、「かくだ体験型観光ツーリズム推進事業アクションプラン」を策定した。

3.観光需要ニーズ調査事業(399 千円)

市内の観光資源「JAXA、スペースタワーコウスモハウス、道の駅」と季節の催事「牟宇姫ひなまつり」等を組み合わせたモニターツアーの実施を予定していたが、令和元年東日本台風の影響及び新型コロナウイルス感染症対策により中止したため、参加予定だった親子に対し、観光需要、二次交通についてのアンケートのみ実施した。

4.かくだ版スポーツツーリズム推進体制・システム構築事業(1,946 千円)

道の駅とKスポの連携による賑わいの相乗効果を図り、かくだ版スポーツツーリズムのシステムを構築するため、道の駅とKスポの一体的なPR(チラシ作成・配布)、健康づくりの拠点化のためのウォーキング教室の開催、幼児連れ親子の遊び場の拠点化のための幼児向け運動教室の開催等を行った。

## [令和2年度]

①「Challenge Million 市民会議」が市からの負担金(8,061 千円)を財源に次の事業を実施した。

1. 「Challenge Million 市民会議」運営(51 千円)

2. 体験型観光ツーリズムコンテンツ開発事業(3,418 千円)

地域資源の掘り起こしと整理、関係者ネットワークの構築を行い、体験型観光のシステムを構築するため、サイクルツーリズム、グリーンツーリズムの専門家の招聘、収穫体験イベント(秘伝豆もぎとり体験、ねぎまつり)、道の駅を集合場所とする新たな体験メニュー(みそ作り&冬野菜収穫体験モニター)のモニタリング等を実施した。

3. 観光需要ニーズ調査事業(2,469 千円)

地域資源を活用した観光周遊ルートの構築のため、市内の地域資源とイベントをバスで巡る周遊型観光モニターツアー、オンラインでのリモート観光ツアー(参加者に事前に送った角田産食材を使っての料理、市内観光施設の紹介動画の視聴等)を実施し、参加者からのアンケート結果を基に観光需要に関する調査・分析を行った。

4. かくだ版スポーツツーリズム推進体制・システム構築事業(2,123 千円)

かくだ版スポーツツーリズム推進体制及びシステムを構築するため、健康づくり・賑わいの拠点化に向けて、日本市民スポーツ連盟認定のウォーキングステーション制度へのウォーキングコースの登録、ウォーキングマップの作成、健康ウォーキング教室、健康スポーツ教室の無料体験会の開催等を行った。

また、Kスポ関係者を対象として、感染症対策を講じたスポーツ活動の再開のための研修会やSNS(Twitter、Facebook)の立ち上げから走り出しまでの伴走型の研修会を開催した。

②今後、当該事業の実施主体となる『(株)まちづくり角田』に道の駅とKスポの連携PR事業を委託(2,298 千円)し、健康スポーツ、幼児向け遊び場等の情報を掲載した連携PRチラシの作成・配布を4回行った。

③幼児向けの遊び場を整備し、道の駅とKスポが連携して活用・PRすることで、幼児向け遊び場の拠点として定着させ、かくだ版スポーツツーリズムを推進するため、交通公園内に幼児向けの遊具及び築山(どんぐりぱーく)を整備(24,068 千円)した。

[令和3年度]

①「Challenge Million 市民会議」が市からの負担金(1,124千円)を財源に次の事業を実施した。

1.「Challenge Million 市民会議」運営(27千円)

2.かくだ版スポーツツーリズム推進事業(1,097千円)

かくだ版スポーツツーリズムの推進・定着化を図るため、健康づくり・賑わいの拠点化に向けて、スポーツに関する大会の誘致・開催、道の駅かくだ情報コーナーを核とした情報発信体制構築のための研修会の開催等を行った。

(1)イベント・教室開催等

プロ野球OB選手による少年少女野球教室と角田市選抜チームとの試合を行うドリーム・ベースボール事業(※)を誘致・開催し、野球教室に119名が参加、試合には604名の観客が集まった。

また、あぶくまパークゴルフ場、市民ゴルフ場の利用者へ道の駅かくだで使える割引券を利用者のべ342名へ配布し、道の駅の新たな利用者層の掘り起こしを図った。

さらに、東京2020大会表彰台レガシープロジェクトに参画し、寄附を受けた表彰台を角田市スポーツ交流館へ展示することで、地域住民の方々に東京2020大会を振り返る機会を提供するとともに、スポーツを通じた地域活性化の促進を図った。

※ ドリーム・ベースボール事業

一般社団法人自治総合センターが宝くじの収益で社会貢献することを目的にスポーツイベントで地域活性化を図る事業



元プロ野球 往年の名選手と対戦  
角田選抜が好ゲーム

元プロ野球選手のチームと、社会人による角田市選抜メンバーが対戦する「ドリーム・ベースボール」(市、自治総合センター主催)が、市野球場であった。出場したのは張本勲さん(元巨人)、谷沢健一さん(元中日)、村田兆治さん、里崎智也さん(ともに元ロッテ)、G・G佐藤さん(元東北楽天)、草野大輔さん(元東北楽天)、昭和や平成期に活躍した元プロ選手20人。市野球協会に加盟するチームから選抜された20人が挑んだ。

試合は10月17日であった。

元プロ野球選手のチーム。観客約600人が元プロ選手の二投一打に注目しながら、市選抜選手の奮闘に声援を送った。点を取り合う好ゲームとなり、5対4で元プロ選手チームが勝利した。

元阪神のエース投手井川慶さんから一時同点に追い付く2点本塁打を放った青沼恭平さん(28)。「仙台市太白区」は「打った瞬間の感触はなく、気が付いたら外野方向へ飛んでいた。元プロ投手はともきれいな球筋でスピードもあり、対戦はいい経験になった」と話した。

力投する角田市選抜チームの投手。打者は巨人監督の福元匡夫さん

▲ドリーム・ベースボール事業の様子  
(2021.11.6 河北新報)

## (2) 人材育成研修会開催等

今後のウォーキング事業を推進するスタッフ育成を目的として、「認定ウォーキング指導員」の資格取得のための研修会を開催し、15名が参加、資格を取得した。

また、Kスポ、道の駅関係者を対象として、道の駅かくだの情報コーナーを核とした効果的な情報発信のあり方を検討し、その体制を構築するために伴走型での研修会を開催した。

- ② 今後、当該事業の実施主体となる『株まちづくり角田』に体験型観光イベント運営事業を委託(4,300千円)し、昨年度までに構築した体験型観光システムをさらに発展させるため、システム検証のためのモデル事業の実施、体験型観光の魅力発信のための情報発信事業を行った。

### 1. モデル事業運営(2,800千円)

体験型観光に係る実施体制の確立のため、昨年度までの調査と研究をもとに、地域資源を活かした体験観光プログラムのモニター(梅もぎ体験、仙台牛の餌やり体験、野菜収穫体験等)や、既存イベントの実施主体と連携した収穫体験イベント(ねぎまつり、秘伝豆もぎとり体験等)を実施した。

また、本サイクルツーリズムの推進を図るため、本交付金で購入した電動アシスト機能付き自転車を活用し、道の駅かくだを発着点としたサイクリングツアーを実施し、10名が参加した。

### 2. 情報ツール制作(1,500千円)

道の駅かくだが角田市の体験型観光のトータル的なプロモーションを行うことで、体験型観光の更なる推進を図るため、体験型観光の宣伝・予約ページを作成するなど、道の駅かくだのホームページをリニューアルした。



▲「かくだ発見！ わくわくサイクリングツアー」の様子



▲ねぎまつりチラシ

③『株まちづくり角田』に観光周遊ルート構築事業を委託(5,000 千円)し、昨年度までに実施したモニターツアーの調査結果を踏まえ、観光周遊ルートを構築した。また、当該観光周遊ルートによる観光ツアーを実施し、今後の商品化に繋がる自立した取組みを行った。

### 1. 観光周遊ルート構築(2,000 千円)

道の駅かくだを賑わいの拠点及び地域のマーケティングの拠点とし、その賑わいを一時的かつ局所的なもので終わらせず、市内各所にその賑わいを循環させ、市内への滞在時間の長期化を図り、地域経済の活性化に繋げることを目的に、周遊型観光モニターツアーの調査結果を踏まえた体験型観光と地域資源を結ぶ観光周遊ルートを構築した。

### 2. モデルコースによる観光ツアー実施・検証(3,000 千円)

「角田市周遊バスツアー&お絵描きトレイン」や「角田で旬のねぎ収穫体験と歴史探訪」など、構築した観光周遊ルートによるツアーを実施した。

また、イベント(ずんだまつり、ねぎまつり)開催時に、角田駅と道の駅かくだ、収穫体験会場を繋ぐシャトルバスを運行し、参加者の利便性を図るとともに、道の駅への集客と賑わいの創出を図った。



▲「角田市周遊バスツアー&お絵かきトレイン」参加者募集リーフレット



▲「角田で旬のねぎ収穫体験と歴史探訪」参加者募集リーフレット



◀『角田・丸森の雑めぐりと「こたつ舟」、角田産「めぐみ野あか鶏のコンフィ」ランチを満喫 往路は阿武隈急行の貸切車両で行く角田市モニターツアー』 R4.1.28 「リビング福島・郡山」掲載

- ④『株まちづくり角田』にかくだ版スポーツツーリズム推進事業を委託(3,296千円)し、Kスポと道の駅かくだの連携チラシの配布、Kスポと道の駅かくだの「健康づくりの拠点化」「幼児親子遊び場拠点化」「賑わいの拠点化」に向けた、ウォーキング教室や親子運動あそび教室を開催した。

1. 地域資源の一体的な情報発信(2,284千円)

地元住民で賑わうKスポと道の駅かくだを目指し、健康スポーツ、幼児の遊び場等の情報を掲載した連携PRチラシの作成・配布を4回行った。

2. イベント・教室等開催(1,012千円)

健康づくりの拠点化に向けて、Kスポ健康ウォーキングコースの利用促進を図るため、初心者向けの健康ウォーキング教室を10回開催し、173名の参加があった。併せて、市民の健康づくりを推進している「角田市ウォーキング協会」の活動を支援することで、ウォーキングの普及に寄与した。

また、新たな利用者層の掘り起こしを図るため、総合体育館で通常行っているワンコイン健康スポーツ教室の無料体験会を10回開催し、136名が参加した。

さらに、幼児の遊び場の拠点化に向けた親子運動あそび教室なども行った。

- ⑤サイクルツーリズムの環境整備を行うため、電動アシスト機能付き自転車10台(1,036千円)と、自転車保管庫(440千円)を購入した。角田駅コミュニティプラザで令和3年9月よりレンタルを開始し、令和4年3月までに46台の利用があった。また、サイクルツーリズムの推進を図るため、レンタサイクルを活用した体験型観光メニューの一つとしてサイクリングツアーを実施した。



▲電動アシスト機能付き自転車



▲自転車保管庫



地方創生活推進交付金事業評価シート

〔達成〕 達成 = 令和3年度の実績値が令和3年度の目標値と同値もしくはこれを上回ったもの  
 達成 A = 現時点において、令和3年度の目標値に達していないが、令和4年度中に目標値に達することが見込まれるもの  
 未達成 B = 現時点において、令和3年度の目標値に達していないが、今後数年程度で目標値に達することが見込まれるもの  
 ※ 未達成 C = 上記に該当せず、現時点において、今後も令和3年度の目標値に達することが難しいもの

No.	指標名	重要業績評価指標(KPI)	担当課	事業開始前 (平成30年度)	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績	令和3年度 目標	達成状況 達成 未達成A 未達成B 未達成C	担当課評価	
										現状分析	今後の取組(改善)
1	道の駅かくた売上高		商工観光課	0千円 (平成30年度)	276,289千円	187,276千円	179,036千円	279,000千円	未達成B	<p>令和5年度東日本台風災害によるKSP利用者の減少、令和2年からの新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛の影響で売り上げ及び来場者が減少している。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の終局が早通らない状況の中、感染症の予防対策をしながら実施できる範囲でイベントを開催して、KSPや観光イベントと連携を図る。                  ②市外からの来訪者を確保するため販売イベントの実施や商品の充実を図り、売り上げを伸ばす努力をしていく。</p>
2	体験型観光メニュー利用者数		商工観光課 まちづくり政策課/生涯学習課	0人 (平成30年度)	148人	1,515人	2,068人	1,940人	達成	<p>①令和3年度以下の通り実施した。全てのモニターツアーに多くの参加があった。また、参加者にモニターツアーに関するアンケート調査を行い、角田市の観光に対する意見が確認できた。                  ・梅もぎ体験モニターツアー 37名                  ・仙台牛の旨やり体験と野菜収穫体験 16名                  ・とつもちもぎ体験 0名                  ・ねぎ収穫体験 924名                  ・サイクリングツアー 10名                  ・納豆センター工場見学と里芋収穫体験 7名                  ・KSP健康ウォーカーキーリングコース体験教室10回173名                  ・KSP健康ウォーカーキーリングコース体験教室10回161名                  ・親子運動会教室 20回21名                  ・ウオーキングステーション体験事業 106名                  ・KSP健康ウォーカーキーリングコース体験教室10回173名                  ・KSP健康ウォーカーキーリングコース体験教室10回161名                  ・親子運動会教室 20回21名</p> <p>②KSPと道の駅かくたが連携したモニター体験型事業を下記のとおり実施した。</p> <p>③周遊型のモニターツアーについて、以下の通り実施した。                  ・角田市周遊バスツアーとお絵かきトレイン 20名                  ・西根田んぼアート周遊バス「かくたバスポート券」9名                  ※コロナで途中中止                  ・角田で目のねぎ収穫体験と歴史探訪 14名                  ・角田・丸森の雄めぐり角田モニターツアー 21名                  ・角田の魅力「新子で見つけ隊」角田の魅力はべっかくた～バスツアー 18名                  ・角田ずんだまつりシャトルバス運行 56名                  ・ねぎまつりシャトルバス運行 288名                  ※西根田んぼアート&amp;そば打ち体験「かくた周遊観光ツアー」はコロナで中止</p>	<p>①令和3年度までに行ってきた事業を踏まえ、道の駅かくたを拠点としたモニターツアー、サイクリングツアーの体験型観光事業を開発、実施していく。                  ②スポーツ型体験事業は、スポーツ団体(KSP)指定管理者、ウォーカーキング協会等)と道の駅かくたとの連携事業として、事業の拡充を図っていく。                  ③角田市の周遊型観光について、季節に応じた周遊型観光ルートを構築するとともに、モニターツアーの実施を通じて参加者ニーズの把握に努めてきた。今後は道の駅が主体となり、参加者の評価を反映した各種周遊型観光ルートの商品化を目指していく。</p>
3	かくたスポーツレジャーズ利用者数		生涯学習課	261,014人 (平成30年度)	209,689人	119,066人	161,019人	285,000人	未達成B	<p>前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため施設の閉鎖(8/27～9/12)や利用制限を設けたが、利用者数が徐々に回復した。                  なお、交通公園自転車利用者数は遊具の新設や道の駅かくたの影響もあり、新型コロナウイルス感染症の発症前を超える人数となった。                  【令和3年度集計状況】(前年度比)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合体育館 56,522人(+11,955人)</li> <li>総合体育館 56,522人(+10,164人)</li> <li>海上競技場 11,323人(+4,162人)</li> <li>野球場 5,424人(+1,212人)</li> <li>多目的運動場 2,000人(+1,166人)</li> <li>多目的芝生広場 3,246人(+1,166人)</li> <li>サッカーコート 3,696人(+3,424人)</li> <li>バレーコート 172人(+17人)</li> <li>交通公園自転車 19,811人(+5,822人)</li> <li>スポーツ交流館 6,799人(+782人)</li> </ul>	<p>新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じながら、新たな利用者層(家族等)での交通公園の利用者層、健康づくり、介護予防を目的とした利用者層、企業等の福利厚生等を目的とした利用者層などの開拓を進め、新型コロナウイルス以前の利用水準までの回復を目指していく。</p>

★「スポーツ・まちづくり」優良自治体表彰(スポーツ庁長官表彰)

Challenge Million2016(H28~H30)とChallenge Million市民会議(R1~)において取り組んできた「スポーツ」と「道の駅」の連携事業については、その取り組みについて評価をうけ、さらに、その取り組みが市内全域へ波及し「スポーツによるまちづくり」につなげていることから令和3年12月にスポーツ庁から標記の表彰を受賞した。

### 角田市の健康づくり 評価 スポーツ庁が優良自治体表彰



式典で記念撮影する(前列右から)黒須市長、選手、室伏長官、武井さん=台東区の浅草橋ヒューリックホール

スポーツ庁による「スポーツまちづくり長官表彰2021」の式典が14日、東京都内であり、角田市が東京五輪・パラリンピックを機に創設された第1回「スポーツ・健康まちづくり」優良自治体表彰を受けた。体育施設が集まる「かくたスポーツプレッジ」(Kスポ)と隣接する道の駅を核に、地域活性化と市民の健康増進を図る取り組みが評価された。

市は2016年度以降、地元スポーツ少年団や仙台台大、笹川スポーツ財団(東

京)と連携を強化。Kスポ内にウォーキングコースや天然芝の幼児向け遊び場を整備したほか、運動と道の駅の食材紹介を組み合わせた介護予防や健康相談も展開する。車いすバスケットボール女子日本代表などの合宿も積極誘致する。

室伏広治長官から表彰状を受け取った黒須市長は「市民一丸で進めてきた活動を認めてもらった。これからも交流人口拡大に努めたい」と喜びを語った。室伏長官は「創意工夫でスポーツを社会課題の解決に活

用した」と述べた。特別ゲストで東京パラの陸上女子マラソン(視覚障害12)金メダルの道下美里選手(44)は「スポーツは心のバリアーを取り払ってくれる」と強調。タレントで日本フェンシング協会会長の武井壮さん(48)は「受賞自治体の皆さん、本当におめでとう。地域にスポーツを」とたたえた。

2021.12.17 河北新報

## 【参考】

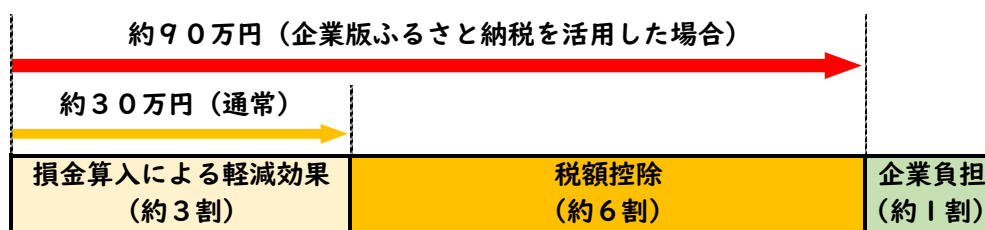
### ■ 企業版ふるさと納税

#### ● 企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）とは

企業版ふるさと納税は、国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みである。

さらに、令和2年度より、地方創生の更なる充実・強化に向けて、地方への資金の流れを飛躍的に高める観点から、制度が大幅に見直された。これにより、損金算入による軽減効果（寄附額の約3割）と合わせて、最大で寄附額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担が約1割まで圧縮されるなど、より使いやすい仕組みとなった。

例えば、企業が100万円を寄附した場合、損金算入措置により、寄附額の約3割（約30万円）の税の軽減効果がある。企業版ふるさと納税を活用した場合は、さらに寄附額の約6割（約60万円）が税額控除され、通常の3倍の約90万円の税の軽減効果がある。



#### ● 令和3年度寄附実績

##### ○ 寄附対象事業

地方創生推進事業 ～ニューツーリズムを核とした地域活性化プロジェクト～

##### ○ 寄附をいただいた企業

企業名	本社所在地
角文 株式会社	愛知県刈谷市

【令和3年度 角田市企業版ふるさと納税 寄附対象事業】

■地方創生推進事業～ニューツーリズムを核とした地域活性化プロジェクト～

目標 1,800万円

○地方創生推進事業

「道の駅かくだ」の賑わいを市内各所に波及させるため、収穫体験を主としたグリーンツーリズムやレンタサイクルを整備してのサイクルツーリズムの推進、市内の地域資源を結ぶ観光周遊ルートの構築など、体験型観光のシステムを構築するとともに、道の駅とその周辺のスポーツ施設が連携してスポーツツーリズムを推進することで、地域経済の好循環を生み出すきっかけを創出する。

寄附金充当事業



○陸上競技場改修事業（第3種公認競技場）

傷んだ走路を改修し、ルール改正に伴う設備、備品をそろえることで、日本陸連の第3種公認を更新し、特に地元の小・中・高校生に陸上競技を安全に行う環境を整えることで、子どものスポーツ振興を図る。

■防災・減災対策事業～令和元年東日本台風を教訓とした防災・減災対策～

目標 6,600万円

○駅前花島線整備事業

令和元年東日本台風の大雨により、尾袋川から左関地区へ越水し、同地区で甚大な家屋浸水被害が生じたため、越水対策及び避難路確保を目的とした止水壁の設置を行う。〔事業スケジュール〕R2年度：測量設計、R3年度：止水壁工事



○大沼野田前線整備事業

市道大沼西堤防線を越水した洪水は、大沼地区の水田地帯に流入し、その後市街地へ流入し甚大な被害をもたらしたため、現在施工中の住社橋（小田川）から谷地町地区に向けて、大沼野田前線の延伸を行い、二線堤として機能させ、また野田地区住民の避難路としての整備を行う。〔事業スケジュール〕R3年度：測量調査設計、R4年度：盛土工事

○南町斗蔵線整備事業

令和元年東日本台風の大雨により、南町斗蔵線の路面の低い区間で冠水し、通行ができなくなったため、大雨時の道路冠水を防止し、緊急輸送路及び避難路確保を目的とした、道路をかさ上げる改良工事を行う。〔事業スケジュール〕R3年度：測量設計・用地補償、R4年度：盛土工事

